

魅力

自然 温泉・リゾート

体験・イベント

東オホーツクの自然環境を活かした 体験型観光により滞在力を強化



オホーツク観光の拠点である網走と世界自然遺産に登録された知床を中心とし、ラムサール条約湿地に登録された濤沸湖(とうふつこ)といった豊かな自然環境を核とした体験型観光、エコツーリズム等の取り組みによる滞在型観光への移行と冬期間の厳しい自然環境を活かした観光により、年間宿泊者数は約120万人を維持している。



知床五湖に写る知床連山

宿泊者数

北海道統計

平成14年(2002)	128万人
平成15年(2003)	123万人
平成16年(2004)	121万人
平成17年(2005)	124万人
平成18年(2006)	119万人

※網走市、美幌町、斜里町、清里町、小清水町、大空町(旧女満別町、旧東藻琴村)の合計

取組

景観保全・環境整備

体験・イベント開催

広域連携の促進

冬季資源を活かした観光



知床雪壁ウォーク



熱気球から眺める「湖上ライトアップ」



ライトアップされた氷像

11月～4月の冬期間閉鎖されている知床横断道路を開通前に歩く「知床雪壁ウォーク」、氷結した網走湖面をレジャーフィールドとして活用する「北の新大陸発見! あったか網走」、流水が接岸する厳冬期の網走港を氷像や雪像で飾る「あばしリオホーツク流氷まつり」など、厳しい自然環境を観光資源として活かす取り組みを進めた結果、冬の入込客数が夏の入込客数にほぼ並ぶまでになった。

体験型観光メニューの充実

オホーツクの自然と緩やかな時の流れを体感できるホーストレッキング、星空の下でオホーツクの自然を観察するナイトウォッチング、流氷のオホーツク海でのダイビングなど、自治体や観光関係事業者は体験型観光を促進し滞在型の観光地を目指す。また、エコツーリズムの普及・促進を目指し知床エコツーリズム推進協議会が発足。森づくり体験を行いながらのネイチャーウォークなど、新たな価値を持った旅を提案している他、知床財団においてもフィールド講座等の体験プログラムを実施している。



流氷を眺めながらのホーストレッキング

環境への配慮

野生生物や自然環境への自動車排ガス被害などを減らすため、平成11年度から知床五湖以奥の自動車通行規制を実施。20分間隔でシャトルバスが運行し、平成19年の利用者は約3万人。斜里町観光協会なども、平成18年からバイオディーゼル燃料を使用した乗合タクシーを運行。平成19年の利用者は388人。

また、オホーツク地域に様々な恩恵を与えてきた流氷が地球温暖化等の影響により減少の一途をたどっていることへの危機感から、「流氷を守ろう!」を合い言葉に北海道網走支庁とオホーツク圏観光連盟などの連携による「オホーツク流氷トラスト運動」が発足。ホテル・旅館などに呼びかけ、宿泊施設の室温設定を見直すなど幅広い取組を行い、「環境先進地オホーツク」の実現を目指す。

網走市観光協会

TEL:0152-44-5849 URL:<http://www2s.biglobe.ne.jp/~abashiri/>

知床斜里町観光協会

TEL:0152-22-2125 URL:<http://www.town.shari.hokkaido.jp/shiretoko/>

滞在力のあるまち